

第3回 大宮公園グランドデザイン検討委員会 議事要旨

- 第一公園と第二、第三公園を一体という、その一体の中身をもう一回整理したい。
- 場所の離れた公園を一体的な公園として、橋などでつないでいるところはたくさんある。大宮公園の場合は、氷川という名前からして湧水があり、水が流れて池を形成し、水源から流末に至る水のシステムがある。人体で血液が隅々まで流れているから健康なように、水は公園の中では大事な要素である。水があつてこそ緑が生きて、水と緑があつて生き物が生きられる。生物が生きられるような空間だからこそ人間は共感でき、癒される。このように、連続性は重要な要素である。
- 歴史や機能の面からすると、第一公園と第二、第三公園はあまりにも違うのではないか。第一公園は、氷川神社に始まって 130 年の歴史がある。川瀬巴水の版画や石井柏亭の『晩春行楽図』に描かれたなど、ステータスのある公園であり、他と比肩できない性格がある。ところが、新しくいろいろ提案されているスポーツなどの機能は、他にどこにでもあるもので、機能的な面での一体化は歴史的な経緯からも、好ましくないのではないか。
- それも一つの考えだ。とは言え、明治神宮の内苑と外苑みたいな関係もある。日本の伝統的な空間には、神聖な内苑、つまり明治神宮という御本殿があるところと、絵画館などがある外苑とがある。このように、一見異なるように見えるものが、相まって一つの世界を構成するという考えもある。
- 新しい公園では今の市民生活の中で、カフェといった皆さんが楽しめるようなものがあつていいと思う。一方、第一公園にはかつて割烹旅館があり、そこで出すウズラ料理を漱石や子規が絶賛した。そういったものを楽しみたい方もいるだろう。第一公園では、食事についてもウズラ料理や、氷川神社の神事と関わりの深い川魚料理があつてもいいのではないか。
- 日常と非日常について、氷川神社が日常で、スタジアムなりスポーツ施設は非日常ということでそれぞれ必要だ、というのは全く同感である。地元の方と話す機会があつたが、氷川神社はこれからも大事にしたいし、一方で公園には要らないものもある、とはっきり言っていた。また、第一公園と第二公園を結ぶところは、産業道路が通っていて、行き来しづらいので、そこをしっかりと整備することにより、一つの公園として機能するのではないかと。
- 大宮公園のグランドデザインは、市が進めている大宮駅グランドセントラルステーション化構想や東口の再開発に合わせてやるべきだと思う。他にも、イギリスのあるジャーナリストが、NACK5 スタジアムを世界的にも見劣りしないスタジアムなのでうまく使ってやるべきだ、とネットの記事に書いている。このようにスタジアムを評価する声もある。

- 運動施設について言えば、緑豊かな中であって、そのスタジアムに行く道すがらも楽しいとか、これからはそこまで考えないといけない。
- 今ある施設は極力使うということのようだが、それは考え方としては理解できるが、一方で民間活力導入の話もある。民間は収支をまず考えるので、民間資金を導入といっても、耐用年数の話がまずあるとすると、例えば耐用年数があと 20 年だとして、20 年後の状況はわからないので、おそらく手が出ないだろう。耐用年数をどうとらえるか、よく考える必要がある。
- 大宮は国の広域地方計画にも位置付けられ、東日本の交流拠点として注目されている。現在、グランドセントラルステーション化構想を計画中である。計画では、徒歩による人の流れを重視しているが、その目的地の一つとして、大宮公園はキーワードになる。人が動くことでまちの価値も上がる。そのためにも、大宮公園と周辺エリアは不可欠な存在であり、大宮公園グランドデザインに期待するところである。
- すでに社会保障関連経費が増大し、建設関係の予算が減少している。公園を整備しても、維持管理が不十分だと、人は近寄らない。公園が自立できるよう、Park-PFI¹など新しい制度により、公園で収入を生み出す必要があり、大宮公園もそのようなことを考える必要があるだろう。
- 公園づくりには、目指すテーマとその達成に向けた体系を明確にすれば、一般の人達も理解しやすいだろう。具体的には、神社の社叢であること、もう一つは、サッカースタジアム。いずれも人の流れを生み出すには外せない要素だ。大宮公園を日常で利用される方と、非日常を求めて来る方とがいるので、日常と非日常をどのように利用の中に取り込むかを考える必要があるのではないか。
- 例えばプールといった特定の機能を設けてしまうと、それをやめるのが難しくなる。このグランドデザインの検討にあたり、残すものとやめるものとを、議論しておくことは、将来使い切ったときにこの機能を残すかどうか決着をつけるのにいい機会だ。残すものとやめるものを明確にするというのは一つのキーワードだ。
- 大宮公園は、昔から交通の便が悪いと皆言うが、実はそれほど悪くない。非日常の NACK5 スタジアムには、2 週間に 1 度のホームゲームに皆町の中を歩いて来る。それは、非日常のいい体験ができるから。日常でいい体験ができないから来ないだけなので、日常でもいい体験ができるとなればみんな歩いて来ると思う。交通の便のことはあまり考える必要はなくて、第一公園と第二公園をつなぐところを、きれいに整備すれば人は間違いなく流れると思う。
- 地元の方は、そのつなぐ部分はもう少し広くして、ハナミズキはすごくきれいだし、桜も一部あるので、四季それぞれの花などでしっかりつくれば、通る人もそこを見ながら行くようになっていいのではないかとやっている。

¹ 平成 29 年 6 月の都市公園法改正により創設された、公募設置管理制度のこと。

- 大宮公園に隣接して市営公園もあり、県と市の両方に税金を納めている側からすると、行政としては一緒なのだから、うまく調整してやっていただきたい。
- 地元の住民もそう思っている。同じところに県営と市営の施設が2つなくてもいいのでは、1つでもいいのでは、と言っている。一方で、野球関係者は県営球場を無くされては困ると言う。
- 市民球場は小学生達がよく使っているが、県営野球場は団体使用ばかりで一般利用はほとんどできない。一般市民の感覚でいうと、自分の応援しているチームが試合をしていけば見に行くくらいで、ほとんど行かない。プロ野球も年間3試合しかやっていない。ふらっと行くところではない。
- どういった基準で考えるのが重要だと思う。公園の存在により周辺の地価が上がるのが大事なのではないか。商業的に単純に上がるのではなく、住民が、この公園があるからここに住みたい、ということで上がるのが重要。当然、それに見合わない機能はなくしていくべきで、競輪場はいらないだろうし、プールも流れるプールならば必要なかもしれない。住んでいる人たちが、公園にこういう施設があるから近くに住みたいとか、ライフスタイルが豊かになるとか、そういう視点が重要ではないか。
- すでにある施設について、残す、やめるといったときの理屈付けを明確にする必要があるのではないか。ただ、やめる理屈がなかなかないので、そのスポーツがあることで経済効果が大きい、といったものがあるとよい。だから、ここは残るけれど、こちららは経済効果が薄いよね、みたいな理屈をつけて話をしないと、関係者は納得しないのではないか。
- 日本の法律は、今まで占用許可を必要とする規制型だった。国はそれを改めるべく、昨年、都市公園法と都市緑地法を改正して対応した。公園の運営を民間に相当任せられるようになったし、従来はかなり限定していた土地利用の条件もかなり緩和した。昔は料亭があったりしたわけだが、そういうものも可能になる。これからは公園を積極的に利用して楽しんでもらおうという考え方に切り替えている。
- 公園は人が集まる場所だから、そこが魅力的になって、皆が喜ばばよい。それが本当の公園の目的だ。公園は行政のためにあるのではない。大宮公園はその一番のさきがけであり、かなり大胆な組み立てを考えたい。
- 私はこのランドデザインのコンセプトを高く評価している。氷川の杜を全面に出している。このコンセプトとしては「聖と俗」ではないか。そのバランスが産業道路のところで分かれていて、第一公園は聖域の場所として、自然を感じる、神様に感謝できる場所としたい。一方、第二、第三公園は子どもたちが集まって、スポーツなどの活動をする場所という外苑として、内苑と外苑とに分かれる。私の思いとこの案は合致しており、評価している。
- コンセプト案で気になったのは、国際化の意味合いをもって大宮をアルファベットに

したというが、国際化の話はどこにも出ていない。そういうネーミングをするのなら、国際化の話が位置づけられているべきで、他に理由がなければ、アルファベットにする必要はない。

- 公園の名称は、もとは「氷川公園」でスタートしたが、昭和初期に正式に「大宮公園」に変わったが、これは鉄道網の整備などにより、公園利用者が旧大宮の村から拡散して首都圏全体に広がったからではないかと考えている。
- 神社に関するものを公園の名称にするのは問題ないと思う。太政官布達の公園には、宮島公園などがあるが、公園の名称はその固有の歴史を表現している。そこにこだわる必要はないのではないかと考えておく必要がある。
- さいたま新都心からだけでなく、大宮駅からの動線、グランドセントラルステーション構想も含めた、市の計画も考慮する必要がある。
- また、芸術がないと公園の価値は上がらないと思っている。芸術とかアートに関するものが感じられない。この点も気になったところ。武蔵野という言葉の意味するところについて、雑木林の武蔵野は江戸時代以降の武蔵野の景観であり、それ以前の武蔵野は見渡す限りのすすき野原の景観である。江戸時代に入り、農家が堆肥や薪を作ったりするために落葉樹、ナラ、クヌギ、ケヤキを植えて人工的に作り出したのが雑木林となった。ここを混同している気がする。
- 武蔵野のイメージを雑木林の武蔵野に限定するのか、江戸時代以前の見渡す限りのすすき野原の原っぱの武蔵野とするのか、統一見解を持って進めないとイメージが混乱してしまう。プランニングの段階では、きちんと統一見解を持って書くべきだ。
- 新しくできる活動の広場をどうするかが、この大宮公園のグランドデザインの一番肝になってくると思う。競輪場と野球場をなくしたけれども、ただの芝生だったらすぐつまらないものになるので、何か顔になるようなモニュメントみたいなものを新しく何か考えられればと思う。
- コンセプト案にある、氷川の杜と原っぱは状態の話。そこに水を加えて、例えば「水に結ばれた氷川の杜と原っぱ」とすると、氷川の杜と原っぱを達成するようにわれわれは計画していて、その中で水があり、そこを結んでいくというような設えにする。そんなコンセプトとすればいいのではないかと。
- また、第二、第三公園で「農」の話があり、確かに見沼というと「農」を切り離せないのはわかるが、大宮公園で「農」は難しいのではないかと。「農」の風景はいいが、活動を広げるという表現が理解できない。
- ワーキングは市民農園みたいなことを描いている。今は結構求められている要素だ。渋谷区がとても地価の高いところで区民農園をつくっているくらいである。六本木ヒルズでは園芸クラブがあり、タワーの住人はみんなそれをやっている。「農」とのつな

がりという、ドイツではクラインガルテン²は相当な量を占めるゾーニングとなっている。日本でも戦前の住宅計画はみんな宅地の中に菜園が全部配置されていた。ここで言っている「農」はそういう意味。農の風景というのはそういう日本文化の象徴である。ここで生産して稼ごうというのではない。

- グランドデザインとは、全部白紙の状態を考えるべきもの。既にある要素を考えていると、部分的な整備というような細かいところに話が行きがちになる。氷川神社や舟遊池などは一応頭の中に入れておくとして、全部白紙の状態から考えないとグランドデザインにならない。
- 日本では公園管理に指定管理者制度を導入しているが、ただ安く管理させているだけで、これで活性化するとは思えない。
- アメリカでは運営権を民間に売ってしまい、運営は全てボランティアの人たちでやっている。ボランティアといっても相当なレベルの高い人たちであり、お金を募れる人たち。行政が供給するのは樹木と芝生の管理の要員だけで、それでうまくいっている。また、行政がインフラ、景観などを整備したところに企業を誘致する方法もある。すると、その企業の周辺に公園が広がる形となり、レストランができたり、ビジネスができたりする。民間に公園の運営権を売るなり貸すなりして、ビジネスができるしくみをつくる、あるいは、最低限のインフラは整備して、あとは民間に投資させる。こうしたシステムをつくるべきだ。
- 民間の力を入れていくには、エリアマネジメントだけでも設置して、地域を交えて一緒になってやらなければいけない。民間も当然投資をしていくというのが前提ではないか。
- 管理がすごく大事で、氷川神社の社叢林の北側の氷川の杜や桜の杜を、神社と一緒に管理すれば、もっといい具合になると思う。氷川神社の参道からの人の流れなどを考えると、やはり神社と県が協力しないとうまくいかないと思う。
- 民間が入ってマネジメントするという話で、スポーツの広場を委託でやるとなったとき、完全にゼロベースで委託するのを想定しているのか、あるいは施設ごとに細かく委託するのか。一旦全部取っ払ってしまい、ゼロベースからスポーツをコアにしたゾーンをつくるというのはとても楽しくなるのではないかと思う。
- 両方あり得る。Park-PFI でやるのは、一旦、ほぼ更地にして全部ハードを造って、マネジメントもやって、稼ぐまでやると。行政はそこから使用料や維持管理経費を取ることもある。
- 全て民間が設備をつくるお金を出すということもあり得るのか。
- あり得る。今は公園の中では、本当はそれをやるべき。建蔽率などの制約はあるが、その範囲内でレストランをつくるなど、いろんなことをやっている。

² ドイツの「市民農園」を指す。

- 今はいろんな手法がある。埼玉県方式を考えてもいい。ただ、受け手がいるかどうか。県にとって都合のいいことばかり言っても、民間がその条件では請けられないということもある。
- グランドデザインはゼロから考えるべきとする意見がある一方で、残す必要のあるものもあるわけだが、この点はどうするのか。
- ゼロからと言っているのは、こまごまと今の施設がここにあるとか考えるのではなく、全体の風景を先に考えて、今あるもので必要なものは残すし、生かすことができるということ。それはランドスケープの自由度の高さだ。優秀なランドスケープデザイナーは、多くの要素を上手く位置付けて、取り込むことができる。別に全て捨てなきゃいけないということではない。考えるときに全体のランドスケープを先に考える、ということだ。
- 出来上がったものが、全くどこにでもあるような新規にプランニングしたもので終わってしまうのではなく、氷川神社、それから公園としても百三十数年の歴史があるところを、やはり残すべきであると思う。
- なくすものが出てくるのはいいのだが、例えば競輪場も日本最古の傾斜バンクがあるし、野球場もかつてベーブルースがホームランを打った記録がある。また、サッカー場にはマラドーナも来ている。あるいは、由緒正しい明治の文豪の多くが大宮公園を訪れていることなど、公園に来た人に、そういう歴史的事実を伝えるガイダンス施設をつくる必要があると思う。単になくせばいいというのではなく、今まで歴史があるわけで、それをどこかで残しながらも新しくしていくべきだ。
- 夜間景観という観点から見たとき、水の景観を主に何かポイント的にやるというのも、一つ名所につくれるアイテムではないかと考えている。氷川には「川」という文字も入っているし、何か水をこの公園のポイントにできたらと考えている。
- これから共働き世帯が確実に増えていくと思われ、家族で朝ご飯を食べることのできる素敵な場所がこの公園の中にあれば、いつも家にいた人々が外に出てくる。休日の素敵な朝の時間やお昼の楽しい時間を過ごせる場所があるといい。レストランやカフェでは地場産のものを使い、スタイリッシュであるといい。すると、周辺の施設のレベルも上がっていくと思う。
- スポーツをやる時、クラブハウスが重要で、汗をかくけれど、そのまま帰るのではなく、そこにシャワーやジャグジーがあって、おいしいご飯も食べられるとなれば、人々は周辺に住みたいと思うのではないか。
- 移動手段については、自転車利用が進み、公共交通機関が整備されていけば、駐車場は要らないだろう。駐車場のスペースがもったいないと思う。
- 水はすごく大事な要素だが、今は澱んでしまっている。澱んでしまっているのはマイナスだが、流れがありきれいだったらプラスになる。そこを意識すべき。

- だいぶ意見が鮮明になってきたのではないかと思う。コンセプトの表現の仕方やその他のご意見もいただいた。大体の合意形成ができた気がするので、議論の分かれるところはそれを明記して、また次回決断していただければいいと思う。